

5月～6月上旬の農作業

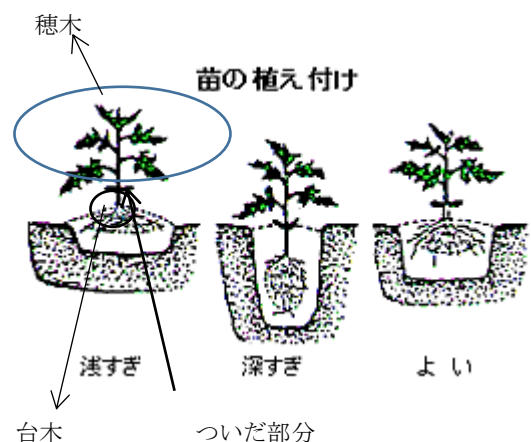
気温の変化が激しい時期です。その日の天候によってビニールハウス内の温度変化が異なるため、ハウスサイドの開閉時間などに気を配りましょう！

種まき	定植	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・スイートコーン ・ハウレンソウ ・コマツナ ・チンゲンサイ ・ニンジン ・ダイコン ・カブ <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーマン ・トマト ・ナス ・キュウリ ・カボチャ ・ハクサイ ・キャベツ ・アスパラガス ・長ネギ ・サトイモ <p>など</p>	<p>【マルチ資材の種類】 マルチ資材の利用は、全般に①土壤の乾燥防止、②地温上昇、③雑草発生抑制、④肥料分流出防止などの効果があります。しかしながら、その効果は色や素材の違いによりさまざまです。栽培する作物の特性や作業効率の確保など、目的に合った資材を選んで使用しましょう。</p> <p>【黒マルチ】 最も一般的な資材で高温性のナスやピーマンなどの栽培に適します。また、春先に定植するレタスやキャベツでは、低温期の地温確保のため、この資材を使います。</p> <p>【白黒マルチ】 表面が白色で太陽光を反射するため、「黒マルチ」よりもマルチ内の温度が低下します。このため、低温性のレタスやキャベツを夏季に定植する場合は、この資材を使います。</p> <p>【透明マルチ】 雑草発生は抑制できません。「黒マルチ」よりも地温が上昇するため、春先などの低温期に、作物の初期生育をしっかりと確保したい場合や、冬季の土壤凍結防止などに利用されます。</p> <p>【シルバーストライプマルチ】 マルチに施されている銀色部が銀色の反射光をつくり出すため、銀色光を嫌うアブラムシ類の飛来を抑制する効果があります。</p>
	<p>収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガス ・コマツナ ・ハウレンソウ ・シュンギク <p>など</p>	

接ぎ木苗について

「接ぎ木苗」とは、台木(根)と茎葉(穂木)が違う苗のことです。接ぎ木苗が利用されているのは、ウリ科やナス科植物が多く、そんな接ぎ木苗のメリットは「土壤病害に強く安定した収量が望める」ということです。ただし、あくまで土壤病害に強いというだけであって、栽培中に問題となるコナジラミ類やえき病などの病害虫にはしっかり対処しなければなりません。

定植する際は、台木と穂木の接合部分が隠れるまで深植えしないよう注意しましょう。穂木から発根して土に触れてしまうため、接ぎ木苗のメリットがなくなってしまいます。



ピーマン第1花の摘花

ピーマンは1つ花が咲くとその後の節から分枝し、また花が咲くと分枝し…、を繰り返しながら生長します。右写真は第1花(最初に咲く花)が着生していますが、この花は摘み取ります。この花を着けたままにしておくと、植物体に負担がかかりその後の生育が抑制されてしまうからです。カラーピーマンやナスも同様です。**1つの株から長く品質の良い果実を収穫していくため、この花は必ず摘み取りましょう。**

第1花を摘花後、矢印(右写真)の方向に枝を誘引し、仕立てていきます。



本写真はカラーピーマン

うね 畝の土づくり・施肥

「畝の真ん中に堆肥と化学肥料を置く。」「種いもと種いもの間に石灰と肥料を置く。」「種まきをする場所のすぐ下に肥料を置く。」など、畝の土づくりや施肥については、皆さんそれぞれ独自の方法があると思います。ここでは資材の目的を整理して、土づくりと施肥の基本的な考え方に立ち返ります。

これを参考に、今一度、ご自身のやり方を見直してみましょう。

堆 肥	石灰質肥料(苦土石灰など)	肥 料
土壌の 水持ちや水はけ、根の張り具合など 、畑作物が育ちやすい環境を作るために施します。一般に100~200kg/aを種まきや定植の1か月~2週間前までに施します。	土壌の 酸度矯正 を図るために施します。畑作物の種類によって増減が必要であったり、アルカリ性が大きい場合は無施用にすることもあります。一般に10~20kg/aを種まきや定植の2週間前までに施します。	生長に必要な養分 を作物に与えるために施します。畑作物の種類や肥料の種類によって増減が必要ですが、ピーマンやナスなどの果菜類に対して一般の化成肥料であれば、元肥として1株当たり50~70g程度を種まきや定植の1週間前までに施します。

一般的に、ほ場全体に堆肥と石灰質肥料を施し、土と混ぜ込むことが土づくりの基本となります。肥料も同じで、土と混ぜ込むことによって作物が穏やかに養分を吸収し生育する環境が整います(図1)。

肥料については、作物が根を張るエリアのみ行きわたっていれば良いため、できるだけ畝内部にこの環境を作るようにしましょう(図2)。しかし、作物の種類によっては、スポット的に肥料を置いても問題ないものもあります。例えば、トマトやナス、ハクサイなど深根性の野菜は株の真下に施肥しても大丈夫です。ダイコンやニンジンなどの根菜類は、肥料濃度の高い部分に根が触れると分岐することがあるため、注意しなければいけません。

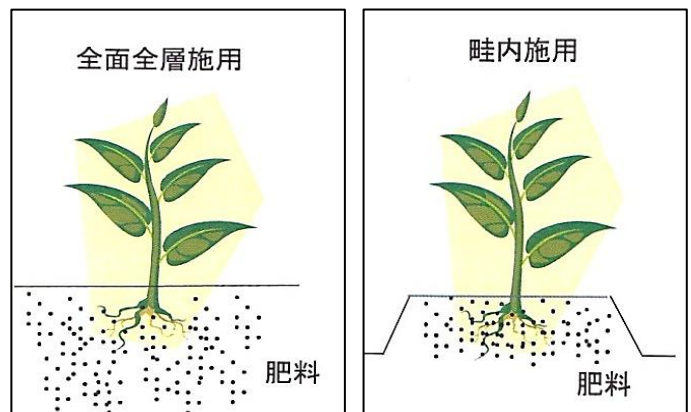


図1

図2

※上図は「土壌診断と作物生育改善」より引用(日本土壌協会)

あさつゆ連絡先

電話番号: 0268-41-1062

FAX: 0268-41-1063

技術事項作成協力

上田農業改良普及センター(木曾)

電話番号: 0268-25-7156(直通) FAX: 0268-23-2161